

ベトナム、メコンデルタ上流地域における持続的な 米生産

ヴォ, ホン, トウ

<http://hdl.handle.net/2324/2236347>

出版情報 : Kyushu University, 2018, 博士 (農学), 論文博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (3)



氏名	ヴォ ホン トゥ Vo Hong Tu			
論文名	SUSTAINABLE RICE PRODUCTION IN THE UPSTREAM REGIONS OF THE VIETNAMESE MEKONG DELTA (ベトナム・メコンデルタ上流地域における持続的な米生産)			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	矢部 光保
	副査	九州大学	教授	福田 晋
	副査	九州大学	教授	南石 晃明
	副査	九州大学	准教授	高橋 義文

論文審査の結果の要旨

ベトナム・メコンデルタ流域における米生産の進展は、環境汚染、生物多様性の喪失、上流地域と下流地域の水利用の対立など、様々な問題を生じさせている。これらの問題に対処するためには、化学肥料や化学農薬そして水使用を削減するなど、環境に配慮した米生産が不可欠である。しかし、行政や農家、農業専門家は環境に配慮した米生産方式の導入に向けて多くの試みを行ってきたが、現実は殆ど進展して来なかった。また、都市消費者は殆ど農業環境政策に貢献して来なかった。そこで、本研究はこれらの問題の解決に向け、環境に配慮した米について、生産側面と需要側面から分析を行なった。分析対象は、カントー市とアンギャン郡の202戸の米農家と360世帯の消費者であり、面接調査を行なった。

まず、供給側面からは、第一に、代平均的技術効率性は85.0%、環境効率性は22.5%、そして水利用効率性は18.8%であることから、効率的生産により生産量は15%増加させ、不要な投入は77.5%、不適切な水利用は81.2%減少できることがわかった。第二に、在来農法農家における平均的環境効率性は16.3%であることから、メコンデルタ地域のける環境保全型農法やGlobalGAP農法を採用した農家より、農薬や化学肥料を過剰投入していることが判明した。第三に、一般化順序ロジットモデルを用いた分析結果から、農協への参加や生物多様性喪失の認知などは環境保全型農法の採用に正の影響を与え、リスク認知や圃場の多さは環境保全型農法の採用に負の影響を与えていることが明らかになった。

次に、需要側面からは、消費者は、環境に配慮した消費者と環境に関心を払わない消費者の存在が示された。前者は、環境に配慮した米に対して、通常の水より170%高く支払っても良いと考えており、生物多様性の100%と150%の増加に対しては、各々2,477 VND/kgと5,785 VND/kgを余分に支払っても良いと考えていた。他方、後者は、価格を重視し、環境ラベルを信じておらず、環境に配慮した米に対してより高い支払い意思は持たないことが明らかになった。また、米消費者は、米の持つ公共財的特性よりも私有財的特性に対してより高い支払い意思を持っていた。

以上、本研究は、最新の分析手法を用いて、ベトナム・メコンデルタ地域における環境に配慮した米生産に関して詳細な生産者と消費者分析を基に、今後の途上国における環境保全型農農業の構築に向け、重要な貢献が期待できる学術的価値の高い研究を行ったものである。よって、本研究は博士（農学）の学位に値すると認める。